

外的営力がつくる小地形

内的営力によって起伏の大きくなった地形は、外的営力によって平坦化する。

河川などの堆積作用により形成される平野を、侵食平野に対して堆積平野と呼ぶ。

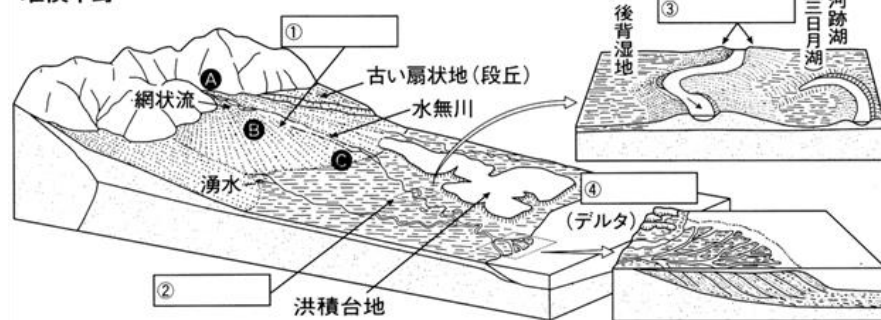
※堆積平野上の地形

- ・ **① 沖積平野** : 完新世(沖積世)に形成された平野。
- ・ **② 台地(洪積台地)** : 更新世(洪積世)に形成された堆積平野が、隆起してできた台地。日本では約12万年以降にできたものを指す場合が多い。

① 沖積平野で見られる地形

河川は急流となる山地では侵食による **[V字谷]** を形成する。運搬された土砂は河川沿いに堆積すると **[谷底(こくゐ/たにぞこ) 平野]** をつくる。

堆積平野



- ・ 外的営力とは? **地球の外側(太陽エネルギー)が源(流水・波など)によって地形を形成する力。**

- ・ 形成された地質年代の違い＝標高や地盤の固結度の違い
- ・ 地質年代とは、地球の歴史を地層に着目した時代区分のこと。完新世は何年前からいつまで? (地 p.148) **1万2千年前～現在**

- ・ 左の図「堆積平野」中の番号と記号は、以下の空欄と一致する。

- ・ 谷口とは? (教 p.181) **山地を流れてきた川が平野に出るところ。山地と平野の境界。**

① 扇状地 : 谷の出口に粒の粗い砂礫が堆積してできる、谷口を頂点とする半円錐状の堆積地形。以下の三部に分けられる。

④ 扇頂 ・ **⑤ 扇央** ・ **⑥ 扇端** → 次ページで解説

② 氾濫原 : 洪水の際、流路一帯が浸水することにより形成された地形。以下の微地形(びちけい)を含む。

③ 自然堤防 : 河道付近に砂が堆積してできる微高地。

⑤ 後背湿地 : **③ 自然堤防** の背後にできる水はけの悪い土地。**⑥ 蛇行・三日月湖(河跡湖)** が見られることもある。

④ 三角州(デルタ) : 河口付近で河川の流れが減速し、運搬力が失われるため砂や泥が堆積してできる地形。**肥沃**。以下の三種の形状。



ア: **⑦ 円弧状三角州** : ex. ナイル川, 太田川など

イ: **⑧ 鳥趾状三角州** : ex. **⑩ ミシシッピ川** など

ウ: **⑨ カスピ(尖)状三角州** : ex. テヴェレ川など

- ・ 坂戸西高校は、沖積平野の氾濫原という地形の中でも低湿な地形の上に立地する。(地理院地図>地図のアイコン>土地の成り立ち・土地利用>地形分類(ベクトルタイル提供実験)>地形分類(自然地形))

- ・ デルタ=△(三角形)

- ・ 三角州は、沿岸流の強さ、運搬される土砂の量などの関係で形が決まる。土砂量が **[多]** く、海底の勾配が緩いとイの形となる。

小地形② 沖積平野の土地利用

教pp.36-38 資pp.10-12

扇状地の土地利用

【集落は、生活のために必要な物資と安全性とを確保できる場所に形成される。】



・[扇頂] = [①] の形成。(教 p.181)

【課題1】なぜ集落が成立するのか？

・[扇央] = 畑・果樹園に利用。

【課題2】なぜ集落が立地しないのか？

【課題3】なぜ水田にならないのか？

○近年は宅地化も進むが、戦前は桑畑や未利用地が多かった。例外的に水田がみられることもある(例: 富山県砺波(となみ)平野)。…水路や圃場(ほじょう)の整備など人の手により自然環境を克服

○地形としては、[②] が見られるところもある。

・[扇端] = 集落や水田はここに成立する。

【課題4】集落や水田が立地する理由は？

氾濫原の土地利用

・[自然堤防] = 集落、畑として利用される。

【課題5】なぜ平野でありながら水田に利用されないのか？

・[後背湿地] = 主に [③] に利用されてきた。地盤は軟弱であるが、近年都市近郊では、宅地開発や公共施設の建設がみられる。

谷口集落から発達した都市の例
(関東地方) (教 p.181)



- 山からは薪・木炭・繭(まゆ)等、平野からは米・塩・魚等が運ばれた。



- 天井川=堤防により河道の固定化をはかると、砂礫の供給がさかんな河道では堤防内(堤外地)での堆積が進行して河床(かしよう)が高くなり、ふたたび氾濫の危険が増す。これを防ぐために堤防を高くすると、さらに河床が高くなる。こうした繰り返しにより、河床面が周辺平野面より高くなった河川をいう。旧草津川など。

- 坂戸西高校は公共施設の典型。逆に川越高校や松山高校は高台(台地)上に立地する。なぜだろうか？